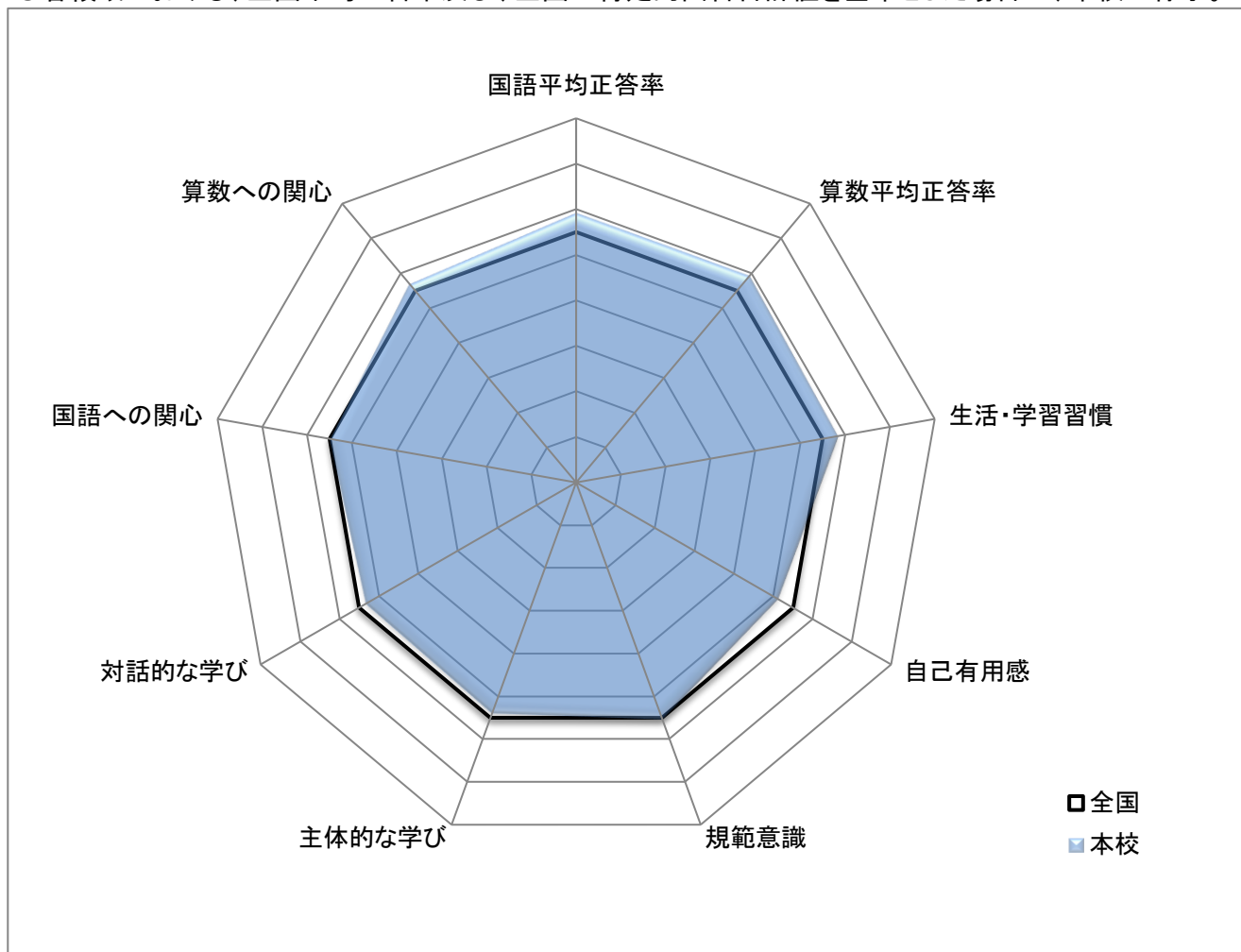


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語・算数ともに、全国平均正答率を5%以上上回っている。東京都の平均正答率と比べても、約2%上回っている。
 ○国語では「読むこと」の領域において成果が見られ、全国を約7.4%上回る結果となった。
 ○算数では「数と計算」「図形」の領域ともに、全国を約7.7%上回る結果となった。
 ○国語、算数への関心は、ともにほぼ全国平均と同じであった。
 ○生活・学習習慣は全国平均を1とした場合の本校が1.07であり、全国平均を上回っている結果となった。

《授業改善のポイント》

○国語では、文章全体の構成を捉え、大体の内容を把握した上で詳細な読み取りをすばやく収集する力を伸ばす。また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する力を伸ばす。
 ○「書くこと」の領域では、自分の考えを明確にして書いたり、読む相手や目的に応じて書いたりすることができるような力を身に付けさせていく。そのために、書き表し方の工夫や、まとめ方のポイントなどについて指導していく。
 ○算数では、公式を理解して面積を求めたり、正しく計算したりする力を伸ばしていけるよう、反復練習を通して基礎的な力を養っていく。
 ○図形を構成したり、分割したりする活動を通して、それぞれの図形がもつ性質を見出せるようにし、自力解決できる力を身に付けさせる。

《チャートの特徴》

○このチャートは、「教科の学力」（国語、算数の平均正答率）と、「児童の学習や生活に関する関心」（児童質問紙調査）について、全国を母集団として本校の調査結果を表したものである。太線は、全国平均を表している。青色部分が本校の調査結果である。
 ○本校の調査結果を見ると、「教科の学力」と「児童の学習や生活に関する関心」とともに、概ね全国平均またはそれを上回っており、全体的にチャートのバランスがとれていることが分かる。しかしながら、「自己有用感」は、全国平均を1とした場合の本校が0.92であり、全国平均をやや下回っている結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

○「教科の学力」が全国平均よりも高いことは、家庭学習が習慣化され、学校教育に対する保護者の理解が高いことが影響していると考えられる。引き続き保護者の協力を得られるよう促していく。
 ○保護者会や学校だより、学年だより、ホームページ等を通して、よりよい生活習慣や規範意識、自己有用感が高まるよう協力を求めていく。